

平成 22 年度第 2 回テンミリオンハウス事業採択・評価委員会議事録

- 日 時：平成 22 年 11 月 22 日（月）18：30～20：30
- 場 所：市役所西棟 8 階 811 会議室
- 出席委員：8 名
- 事務局：高齢者支援課、保育課、市民社会福祉協議会

1 開会

2 配付資料確認

事務局より事前配付資料の説明

3 応募団体ヒアリング事前説明

（資料 1 「資料集」に基づき説明）

4 議事

（1）応募団体ヒアリング

【グループ萩の会（以下、萩の会）】

（プレゼンテーション）

平成 11 年 11 月にテンミリオンハウスの 1 号館として始まった「川路さんち」を 10 年間運営してまいりました。開所当初の利用者数は 1 日平均 5 名でしたが、平成 19 年には代表の交代やスタッフの入替りがあり、今までの体制を見直しました。その結果、平成 21 年の 1 日平均利用者数は 10 名ほどまでに増えました。開所当初から約 11 年間元気に通い続けている利用者が多く、平成 22 年 9 月現在の利用者平均年齢は 83 歳で、最高年齢は 96 歳となっています。

利用者の楽しみは「昼食」であり、萩の会では利用者の方々のために栄養士のアドバイスを受け、20 品目に近い旬の食材を活かし、栄養バランスを考えた食事をベテラン主婦のスタッフが心を込めて手作りしています。利用者の方々には、おしゃべりをしながらゆっくり食べていただき、美味しいと好評です。

毎日おやつの前に「だんだん体操」をして健康づくりのために体を動かすことをしています。

プログラムは、利用者の皆さんが興味のあることは何だろう、と毎月のスタ

ップ会議で模索しながら決めております。コーラス、書道、編み物等講師の人も良く、人気のプログラムとなっています。

3月には「ひな祭り」、6月には「菖蒲まつり」、8月には「ビアパーティー」、11月には「オープンハウス」、12月には「クリスマス」と利用者の皆さんや地域の皆さんを対象にした催しを実施しており、イベントのある季節は皆様楽しみにしておられます。

西久保コミセン、西久保福祉の会、西久保一丁目町会等と共催して健康講座、認知症講座を実施し、近隣の小中学生との交流や精華保育園とのふれあいもあり、これまでに保ってきた地域との関わりを、より一層深めていきたいと思っております。

運営は西久保地域の主婦を中心としたグループで行っており、地元で詳しいスタッフが利用される方の身になって、ゆっくり楽しくくつろげる場であるよう心掛けています。

私達は、これまでの約11年間と同じく、今後も運営を日々充実させていきたいと思っております。テンミリオンハウスは「共助」の取り組みとして武蔵野市が始めた事業です。西久保に住む住民で構成された「グループ萩の会」こそが「川路さんち」を運営していきたいと強く希望しています。

今後につきましては、来年度のプログラムに希望の多いパステル画を取り入れる予定です。また、在宅介護支援センターとはこれまでどおり連絡を取り合いながら、利用者が適切なサービスを受けられるように相談していきたいと思っております。

スタッフについては、地域に住む若い方々に入っていただき、良いところを残し、その時の状況に合った運営で「グループ萩の会」を盛り上げていきたいと思っております。そして私達も是非、将来利用者として通っていききたいと思っております。

私達スタッフにとって「川路さんち」の運営はとても楽しく、また、利用者にも本当に喜んでいただけるので、毎日やりがいを感じ、生きがいでもあります。開所当初から通って来られている方達は、自分達がお世話になった人達です。そのような方達に恩返しをしたいという気持ちで運営してきました。利用者の方達から、「これからも今の『川路さんち』に通いたい」「『川路さんち』へ来るのが楽しみ」という声を受ける度に何としてでも運営を続けていきたいという強い気持ちでいっぱいです。

(質疑応答)

【委員】 今まで運営されてきた中で、精華保育園との交流を行っておりますが、これまでにどのくらいの交流ができましたでしょうか。また、今後の利用者数について、限界はあると思いますが増やしていきたいというお考えはあるのでしょうか。

【萩の会】 精華保育園との交流は、園児がお散歩のときに寄ってくれます。園児は1歳～2歳までなので、靴を脱いで施設内に上がることはしませんが、お庭で利用者と交流を図っています。季節によって手作りの鯉のぼりやお芋ほりで採った芋を持ってきてくれ、こちらからはクリスマス会のためにみかんを提供する等といった交流を行っています。

利用者数については、もっともっとたくさんの方に来ていただきたいと思いますが、「川路さんち」開所当初から昼食が中心なので、午前中や午後のみで帰られるということはなく、大体1日いらっしゃることが多くなっています。そのような状況ですが、土曜日の開設や新しいことを考えなくてはならないと思っています。

【副委員長】 これまでの10年間を振り返って、これからどういうところに向かっていくのか、新しい利用者を広げていくための方法について具体的にお伺いしたいと思います。

【萩の会】 これまでは昼間だけが高齢者の方々が利用されるので、夜間の利用や土曜日・日曜日の利用を考えていかなければならないのかと感じています。建物の管理上踏み込めない部分ではありますが、1年を通して施設の利用をしていかななくてはならないと考えています。

【委員】 事業提案書には、若い新しいスタッフを育てる環境づくりとありますが、具体的にはどのようなことをお考えなのでしょう。

【萩の会】 去年まではスタッフの中に65歳以上の方が半数以上いると補助金算定で50万円が加算されるという規定でしたので、それを保ってきました。しかし、今年度に入りその規定がなくなったので、若い方を次の世代、次の世代という具合に入ってもらいたいと考えています。我々の年代は機械に弱いので、今の時代にあったようなシステムを取り入れていけることができるのではないかと思います。また、もっと若い世代の方からは、「お昼を作るなんてなかなか私達にはできないわ。」という話を聞くので、そうなってしまっただけは寂しいので、少しずつでも私達の活動を見ていただいて、良さを知ってもらいたいと考えています。

【委員】 スタッフの実際の勤務体制についてお伺いしたいと思います。

【萩の会】 1日の体制は、責任者1名とスタッフ2名の3名体制となっています。

【委員】 事業資金計画書の中には、役員と職員、そして非常勤職員がいるようですが、その内訳はどのようになっているのでしょうか。

【萩の会】 役員は代表、副代表、会計、書記の4名です。役員は全員が毎日勤務するわけではありませんが、必ず1日1人職員として入るようにしています。また、事業資金計画書の職員俸給はスタッフとして勤務する3名の中に役員が1人入るということで、常時1名分の職員俸給を計上しています。

【委員】 利用登録者数は60名ほどになったということですが、男性・女性の人数はどのようになっていますでしょうか。

【萩の会】 男性利用登録者数は、この10月までの実績で10名近くいらっしゃいます。女性は60名近くいらっしゃいます。男性の方の利用がとても少ないのですが、「川路さんち」のある西久保1丁目には独居の男性がほとんどいらっしゃらないのです。ご夫婦で「川路さんち」へいらっしゃる方もおりますが、大抵はお元気な方が多く、「川路さんち」の食事では物足りないのかなという気がします。また、健康マージャンを行うことを勧められたこともありますが、最近ではマージャンを行う女性も増えましたので、「川路さんち」で実施しても男性利用者が増える要因にはならないのではないかと感じています。

【委員】 施設を見学させていただいた際も、利用者は女性が多く、スタッフも女性中心なので、女性に利用者が偏る傾向があるのかなと感じました。

【萩の会】 ボランティアには男性の方にも参加していただいております。

【委員】 若い世代のスタッフを取り込んでいきたいということでしたが、後継者という点でも現にどのように取り込んでいくのか具体的にお伺いしたいと思います。

【萩の会】 スタッフには民生委員や保護司、町会の役員、福祉の会の役員、青少協等を担っている者がおり、そのような場に出る機会が多いので、そこで知り合う若い方達を取り込んでいきたいと考えています。

【特定非営利活動法人 F P 武蔵野グループ（以下F P 武蔵野）】

（プレゼンテーション）

高齢化社会を迎え、自分の老後に不安を抱える人が増えてきています。1つは癌や脳卒中等の病気、最近では認知症も加えた健康に対する心配です。もう1つは不安定な年金制度に代表される、老後のお金に対する心配です。私達のグループは、後者のお金に関する心配について、将来の綿密な収支計画をつくることによって不安を解消できるというファイナンシャルプランニングという手法を広く一般に啓蒙すべき、昨年東京都の認可を受けてNPO法人を立ちあげました。メンバーは、ファイナンシャルプランナーをはじめ、弁護士3名、税理士2名、公認会計士、司法書士、社会保険労務士や民間の方がおります。特にファイナンシャルプランナーは熟年世代が多く、得意分野も老人ホームの研究や任意後見制度を含む成年後見人制度、相続と贈与、最後はお葬式のエンディングプランまで高齢者問題の専門家が揃っています。我々が特に力を入れているのは、自分達と同世代、すなわちシルバー世代の人達のファイナンシャルプランニングを実践していただくことによって、充実した人生を送っていただきたいということに、使命と情熱を傾けております。殊に、老後のお金の悩みを解決できるのは、世界広しと言えどファイナンシャルプランナーしかいないという信念に燃えて活動しております。

活動を少し紹介させていただきますと、今年の1月市民協働サロンのサロンカフェでNPO法人助成金の取得方法のセミナーを実施、3月には武蔵野市をはじめ近隣各市の後援を得まして、スイングホールで「豊かなセカンドライフを目指して」と題し、セミナーと懇談会を開催しました。来年も引き続き武蔵野市のNPO支援事業として2月に開催を予定しております。

続いて、「川路さんち」の応募理由についてお話させていただきます。

1人でも多くの方々の老後の不安を解消する活動の拠点「川路さんち」の運営を通して、地域の高齢者問題に貢献していきたいということです。また、「川路さんち」にお見えになる方が、私達のアドバイスにより実際に安心して生活をエンジョイされているという姿を通して、ファイナンシャルプランニングの効果を多くの皆様に認識していただければと考えております。

次に、運営の基本コンセプトについてお話させていただきます。

現在受託されている「萩の会」は大変立派な運営をされておりますので、基本的には行事や食事は今までどおりの形を引き継ぎ、また、希望があれば現在働いていらっしゃる方については、優先的にお手伝いいただきたいと考えてお

ります。私共はいくつか事業を提案させていただいておりますが、全てをすぐに取り入れるということではなく、利用者の意見を伺いながら徐々に取り入れていこうと思っております。また、利用者や地域の方々にアンケートを実施し、皆様のご要望やご意見を伺いながらきめ細かい運営に努めてまいります。

次に当グループ運営の3つの特色をあげたいと思います。

どこのテンミリオンハウスでも男性利用者よりも女性利用者の利用が多いと思いますが、2年後には団塊の世代と呼ばれる人達が65歳を迎え、大量に地域へ戻られます。この方達を地域の戦力として取り組むことは行政の課題にもなっておりますが、私達も是非その一助を担いたいと考え、プログラムを用意しました。

例えば、ニュース解説のプログラムでは政治や経済、社会等団塊の世代が興味のあるような話題をファシリテーションという手法を使ってグループに分かれて討論し、自分達がどう考えるか、自分達にできることは何か、それをどうすれば地域に還元することができるかについて議論を進めていただきます。そして、意見がまとまればミニサークルを作って地域のために活動していただくことにより、参加者には生きがい生まれ、且つ地域の人にも恩恵を与えることができます。

このように、ただ講師から教わるだけではなく、自分達が積極的に参加し行動するプログラムを用意します。

2つめは、先に紹介した私達ファイナンシャルプランナーの知識やメンバーのノウハウを活用し、更に数多くの武蔵野市で開業している医師や勤務医の知人の力を借り、私達の持つ知識やノウハウを結集させることによって、高齢者問題の解決に至らなくとも、どうすれば解決できるかという道筋について間違いなくアドバイスすることができます。そこで「川路さんち」を高齢者問題が気軽に相談できる「地域の相談センター」にしようと考えています。

3つめは、市民協働サロンを運営している武蔵野市NPO・市民活動ネットワークの理事をさせていただいている関係から知り合いになったテンミリオンハウスやコミセン等を運営している方々より、先輩として教えを被ることもできます。また、そういう方々と連携して行事を行うこともできます。更に、川路さんちの利用者をご紹介して、新たな生きがいを見つけていただくコーディネーター的な役割を果たすこともできると思います。

このように、私共FP武蔵野グループに運営をご依頼いただければ、地域に住むシニア・シルバー世代の人達に新しい生きがい・目標、そして何よりも「前

向きに生きる姿勢」を提供し、地域にとってはその方達のパワーが生き、今後増え続ける高齢者問題で何かあれば、「川路さんち」に行けば良いという地域の人の安心の拠点としての機能を果たしていけるものと確信しています。

(質疑応答)

【委員】 プレゼンテーションではファイナンシャルプランナーという言葉がたくさん出てきましたが、ファイナンシャルプランナーについてもっと説明して欲しいと思います。また、事業の計画については大変素晴らしい計画だと思えますが、今までの「川路さんち」の利用状況を見ますと 60 代の方の利用が非常に少なく高齢に偏っています。この事業の内容を見ますと、現在の利用者が受け入れられるのか疑問があるので、提案いただいた事業は現在の利用者達に対応できるのかという点についてお伺いしたいと思います。

【F P 武蔵野】 ファイナンシャルという言葉ですが、基本的には金融という意味かと思えます。ファイナンシャルプランナーそのものはアメリカに生まれた制度で、世界共通の資格です。主な役割としては、老後のお金に対する不安を解消するために将来の計画を立ててあげることです。

事業についてですが、例えばニュース解説の事業については、まさに団塊の世代の人達であれば、現役を離れて寂しい思いがありますので、社会とある程度関わりたいという人も是非「川路さんち」に来ていただきたい、70 歳・80 歳だけではなく、65 歳からも取り込んでいきたいと考えて提案した事業です。また、大河ドラマを見ながら皆で討論しましょうという内容であれば、70 代や 80 代でも参加できる事業かと思えます。事業に関する基本的なコンセプトとして「自分達は老人ではない」、「自分達も参加して何かできる、何か地域のためにやれるんだ」ということを事業の中に 1 つ 1 つ入れていきたいと考えております。

【副委員長】 最初は今の「川路さんち」の運営方法を引き継ぎ、利用者や地域の意見を取り込んで新しい事業を追加していくということでしたが、どのくらいの時間的な目安で F P 武蔵野らしい事業に繋げていくのかお伺いしたいと思います。

【F P 武蔵野】 あと 2 年くらい経ちますと団塊の世代が 65 歳になるということもございますので、少なくとも 1 年から 1 年半は今の体制を維持し、その間でも 1 つや 2 つは新しいプログラムを入れることもあります。基本的には今の体制を維持していきたいと思えます。その中でも団塊の世代が 65 歳になられることや地域の方等へのアンケートを実施して皆様の声を伺いながら、

徐々に新しいプログラムを入れていきたいと思います。

【委員】 事業提案書でご提案いただいた内容について、全体を見たときに何を目指すのかということを一言でご説明いただきたいと思います。

【F P 武蔵野】 参加型のプログラムということです。

【委員】 スタッフ体制についてですが、常勤の方と非常勤の方で原則3名と書かれていますが、施設長が1人いて他はスタッフであり、常勤は施設長だけということではよろしいでしょうか。

【F P 武蔵野】 施設長と副施設長が常勤となります。この2人の内どちらかが基本的にはいるという体制で整えていきたいと思います。

【委員】 基本的には1年から2年のスパンを見て、F Pの考える事業にしていきたいということでしょうか。

【F P 武蔵野】 はい、地域の安心の拠点にしたいと考えております。

【委員】 「川路さんち」の利用者の平均年齢は80歳代ということですが、今のお話を伺うと60歳代から70歳代の方が対象となるように感じておりますが、そのことについてどのようにお考えでしょうか。これまでの利用者が来れなくなってしまう状況が発生してしまうのではないかと感じます。今の運営体制を継続していくこともお考えのようなので、その点についてお伺いしたいと思います。

【F P 武蔵野】 基本的には今の体制を引き継いでいくので、今あるプログラムは活かしていきたいと考えます。ただ、今のプログラムは80歳代を中心としたプログラムなので、60歳代の方達も取り込めるようなプログラムを、バランスを取りながら行っていきたいと思います。今の利用者も参加できるよう工夫し、臨機応変に対応していきたいと思います。

【委員】 NPO法人でいらっしゃいますので、今回提出いただいた名簿以外にもスタッフの方がいらっしゃるのではないかとと思いますが、どれくらいいらっしゃるのでしょうか。また、本体の収入源についてお伺いしたいと思います。

【F P 武蔵野】 人数は総勢26名ほどになります。また、収入は全て会費で賄っています。よって規模としましては、年間の会費と入会金を合わせて30万円ほどとなります。

【委員長】 事業計画書には各プログラム参加料を無料として、教材費・材料費は実費負担とありますが、実際にはどのくらいかかる予定でしょうか。

【F P 武蔵野】 材料費や資料代として1人100円を目安としています。

(2) 推薦団体決定討議

【委員長】 各委員に評価いただいた採点表の集計結果のとおり、グループ萩の会が447点、NPO法人FP武蔵野グループが402点ということで、グループ萩の会が優先順位1位となりましたが、各委員のご意見を伺いたいと思います。

—— 各委員による討議 ——

【委員長】 それでは、お諮りします。グループ萩の会を1位、FP武蔵野グループを2位ということで、テンミリオンハウス事業採択・評価委員会として市長へ推薦してよろしいでしょうか。 → 全委員了承。

【委員長】 それではそのように決定します。

(3) その他（平成23年度運営団体公募案について）

【事務局】 続いて、その他の議題に入りますが、このことについては事務局から説明させていただきます。内容は次年度の運営団体公募案についてですので、資料3に基づいてご説明いたします。

来年はテンミリオンハウス「月見路」、「関三倶楽部」、「そ～らの家」の3施設が公募の対象となっております。公募の方法は基本的には今回の「川路さんち」と同様に行いますが、来年度は3施設が対象ですので、運営団体を採択するテンミリオンハウス事業採択・評価委員会は原則的には1つの施設に対して1回行うことにしたいと思います。但し、応募団体の数によっては1回の委員会に含めて実施することも考えております。

また、応募団体には必ず建物内覧会・相談会に参加いただくこととし、参加せずして事業提案書のみを提出することは認めないしたいと思います。但し、現運営団体は除きます。更に、建物内覧会・相談会の予約受付期間を過ぎた場合の予約については、受け付けないことといたします。

また、来年度の公募に際し、併願は禁止とします。つまり3施設、2施設に応募することは認めないということです。但し、現在テンミリオンハウスを運営している団体が応募してくることは妨げないしたいと思います。

公募スケジュールについてですが、今年度のスケジュールよりも1ヶ月早めたいと思います。公募に関する委員会日程調整が6月中となっておりますが、少し早いのではないかと考えておりますので、来年5月中旬から下旬に行われる第1回の委員会で日程調整時期についてご相談させていただきたいと考えて

おります。

別件になりますが、前年度実施しました委員のテンミリオンハウス視察につきましては、今年度も来年2月から3月あたりに実施したいと考えております。日程調整につきましては、次回委員会でお伺いしたいと考えておりますが、来年度は3施設公募対象になっていることもございますので、是非ご参加いただければと思います。

【副委員長】 事業提案書を提出期限の1週間前に社協に提出するのは、一度見てもらうという意味でしょうか。

【事務局】 はい、事前に内容を確認していただく意味です。この間に実務的に修正箇所があれば団体に返却して、最終的な提出期限までに提出いただこうと考えております。

【副委員長】 提出期限が2つあるのはおかしいので、社協に事前に相談するという形の方が良いのではないのでしょうか。

【事務局】 そのような表現に変えさせていただきます。

【委員長】 建物内覧会・相談会の予約期間が7月1日から8月5日までとなっていて、内覧会・相談会の期間が7月25日から8月5日までとなっていますが、どちらかをずらさないと難しいのではないのでしょうか。

【事務局】 受付は市報に掲載した段階から始めるということにしており、内覧会・相談会の実施日をあまり遅くしてしまつては計画をたてる時間がなくなってしまうこともありますので、この時期に2週間実施することになっています。予約の受付期間は、今年度も最終日当日まで受付としましたが、現実的には厳しいと思います。

【委員長】 予約は7月いっぱいにしてはいかがでしょうか。

【事務局】 そのように変更したいと思います。

【副委員長】 併願の禁止について、別の施設を運営している団体の応募は認めるというのはどのようなお考えなのでしょう。テンミリオンハウスの運営そのものをどう考えるかということにも関わってくるのですが、これは今の段階では早すぎるのではないのでしょうか。もっと20や30の施設が出来ていて、運営する団体が少なそうだとすることであれば分かりますが、地域のそれぞれの特徴を出そうという段階ですから、あまり同じところが運営しようというのは好ましくないのではないのでしょうか。

【事務局】 過去の公募で当時別のテンミリオンハウスを運営していた団体が応募してきた経緯がありましたので、ルール化した方がよいという考えで今回

提案させていただきました。例えば、現運営団体は1つのテンミリオンハウスの運営に限るとルール化しても構わないと思います。その点についてご審議いただきたいと思います。

【委員長】 応募してみたけれど、誰も手を挙げなかったということも考えられるのではないのでしょうか。

【事務局】 基本的に新しく応募してきたところに対しては、併願を認めないという形になりますが、現運営団体については審議が必要と考えます。誰も手を挙げなかった場合のパターンも考えておく必要があると思います。この件につきましてはもう少し考えを練り、正式には来年5月の第1回委員会で決める方向で考えております。また、同委員会で公募対象の3施設に対する市としてのコンセプトについて、ご意見をいただければと考えております。

【委員長】 次回の委員会はいつ頃の予定ですか。

【事務局】 次回は12月17日に次年度の事業計画を採択する委員会を開催予定です。

【委員長】 それでは次回の委員会で次年度の公募について最終的に決めるということでしょうか。 → 異議なし。

それでは、本日の平成22年度第2回テンミリオンハウス事業採択・評価委員会はこれをもって終了いたします。

5 閉会

以上